



# 双松会会報

第25号「双松会」通巻29号「松高北高同窓会報」通巻29号

発行 松江市奥谷町164

島根県立松江北高等学校内 双松会事務局

TEL: 21-4888・21-0655

FAX: 21-4977

印刷 株式会社島根県農協印刷

TEL: 21-3476

青春グラフィティー Vol.2

第28期(昭和52年卒)

## 傷つくのが青春!

心に残るシーンといえは、定番は学校行事。今回は、学園祭をふりかえりたいと思います。

九月の初め(折しも、北高学園祭最終日)、この欄にエッセイを、という依頼を受けたとき、ちょうど島根大学での「特別活動指導論」という集中講義を終了したばかり。今年度は、「人とうまくやっていけるか」をテーマに、「傷つくことの大切さ」に焦点を当て、授業をしました。

「なぜか?」って。それは、傷つきたくないし、傷ついたらなくて、結果的に人とかかわらず、ものごとを一面的にしかみようとしないことで、人間関係をうまく築けない若者が増えていくことが気がかりだったからです。

教材のひとつとして、昨年度の受講生が小中高時代の運動会をふりかえって書いたエッセイ集(拙編「運動会」(自分分試し)の物語)を利用しました。70年代以降、子どもが簡単に傷つく(身体的にも精神的にも)ので、傷つかない配慮をする、安全第一の「燃

えない運動会」が広がりまし。た。棒倒しが消え、騎馬戦が消え、徒競走が消え……。そんな運動会を学生はどう受けとめていたのでしょうか。結果は、総じて「そんな運動会はずまらない。個性発揮の場が失われるのはイヤだ」というものでした。

そのとき、学生と交わした言葉が印象的でした。「傷つくことを怖がってたらなんにもできないよ!! 傷つくことへの心配はあるけど、心配しすぎるのはダメ!」「大人に簡単に傷つくと思われの方が傷つくっていった子がいるって、先生紹介してたけど、共感しちゃった。私もそうだったから」「自分の言葉やしたこと人が人を傷つけていると自覚するくらいは感受性をもたなければいけないと思うけど、それでも無意識に傷つけていることがあると思う」と、ひきこもりたくなる。でも、傷つくかもしれないということとを怖れずにかかわらないといけないことがあるということとがわかったから、いまここに



島田博司

現状は、どうなっているのでしょうか。北校の一年後輩で、母校で教えている山本富朗先生にお尋ねしたところ、「今年、騎馬戦が復活しました」とのことでした。その舞台裏には、「生徒への信頼」ということが強くあったとい

います。思わず、喝采!! 「北高魂、ここにあり!」です。傷つけられることとや傷の深さに心を奪われるより、ちよつとのことでは傷つかないタフさや他者の痛みを思いやるやさしさを身につけさせようとする教育観があります。この生き方をサポートする先生や親や友だちの存在を応援したいと思っています。

ところで、本づくりに当たっては、北高より当時の卒業アルバムからの写真転載の許可をいただき、裏表紙を飾らせてもらいました。場所は、町外れ?にあった西川津校舎の校庭。



そこには、後夜祭でのファイアーストームや、壇上で秋雨(当時の学園祭は九月下旬実施)に濡れながら手拍子をして歌っている私たちの姿が映っていました。そんな風景も今はなく、うらやましがる学生が少なくありませんでした。私が北高出身だと知った受講生のなかに、第53期生の陶山愛美さんがいて、笑顔で声をかけてくれました。同窓のよしみを感じる瞬間でした。北高の、よき気風を受け継がれていくことを祈っています!



ごあいさつ

会長

松本幹彦

今年の夏は例年にならない厳しい暑さの日が続きましたが、皆様にはますますご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

メダルラッシュに日本中が沸きに沸いたアテネ五輪でしたが、五輪より一足早い八月一日から、島根県を主会場として高校生のスポーツの祭典、全国高等学校総合体育大会が開催され、各地で熱戦が繰り広げられました。母校からは五〇名近い選手諸君が県代表として各種競技に出場し、強い精神力と鍛え抜かれた技と力を遺憾なく発揮して、全国の強豪に伍して「松江北高ここにあり」と、堂々と競い合い頼もしい限りでした。

よく「双松会の会員数は何人くらいか」と尋ねられます。正確な数を承知しませんので、見当で「三五、〇〇〇人くらいでは」と答えてきたこともあって、先日事務局を煩わせて丹念に調べてもらいました。その結果、明治十二年卒業の松江中学一期生から今春の松江北高卒業生までの総数は三七、五七八名で、その内訳は松江中学卒(松江第

一高校一期生を含む)七、一七四名(一、九三九名)、松江高校卒七、二四〇名(六、一三三名)、松江北高卒一八、九八三名(一七、一六七名)、通信制課程卒四、一八一名(三、四五八名)——かつこの数字は、事務局で住所が把握できている存命の会員数で、その合計は二八、六九七名になります。今後も毎年、全日制と通信制あわせて約五〇〇名が入会してきますから、会員数は年々拡大していくわけで誠に喜ばしい限りですが、頭を悩ませることもありま。それは来年度中に発刊を予定している名簿「双松」が、これまでと同じスタイルで一冊にまとめるのは難しいのではないかと言われていることです。また、現在、全国的に進められている平成の大合併によって、住所表示などが大幅に変更されることも予想されますので、名簿の装丁の工夫にあわせ発刊の時期につきましても検討してまいりたいと考えています。

家庭、ご夫婦など複数の会員がいらつしやるご家庭なども少なくありません。これまで「双松会報」はそれぞれの会員の皆様にお送りしてきましたが、昨年の会報でご案内しましたように、今年からは経費節減のため、一世代に一冊お届けさせていただきま。ご家庭内でご回読いただき、母校の思い出話を花を咲かせていただければ幸いです。



北高の図書館は、昨年度・一昨年度の二年をかけて蔵書の整理及び貸出業務の電算化という大きな事業を行いました。電算化は貸出業務の迅速化・蔵書管理の徹底・貸出統計の精度向上など様々なメリットがあり、県下の学校図書館でも順次整備がなされています。

ご存知のように松江北高図書館は蔵書数二万数千冊という県下の高校図書館では有数の規模のもので、災害により失われたものも多いと聞いていますが、書庫には松江中学時代の貴重な古書もまだまだ数多く蔵されています。

学校図書館の最大の使命は、在籍する生徒達に必要な情報を提供することであり、毎学期各教科の先生方に生徒の必要としている図書を選定をしていただいています。これは一方で現在の生徒達が当面必要でなく、利用していない図書の廃棄を意味します。限られたスペースの学校図書館では、図書の廃棄は避けて通ることのできない現実です。司書を中心として多くの先生方に力を借り、図書資料の選別を行いました。個人的には残念な思いのする図書も、学校図書館という立場上泣く泣く廃棄処分いたしました。

そうした作業の中で改めて感じましたことは、伝統の持つ貴重な図書の中には、双松会会員からの寄贈のものが数多くあることが確認できました。復刻の古典籍や美術書など学校図書館の予算の中では購入できないものの多くが、双松会会員からの寄贈により収められています。母校の後輩を思いやる会員の皆様の優しさが、生徒の心の糧となっていると痛感しました。(勿論、これら会員からの寄贈書は今回の整理でも廃棄することなく大切に保存しています。)

若者の読書離れが憂慮され久しくなります。本校もここ数年生徒の読書量の減少に頭を痛めてきました。しかし、昨年度よりわずかつづつですが、復調の兆しが見えはじめています。小さな灯りかも知れませんが、これを消すことなく、大きな焰となるよう大切に育てていきたいと思っています。

どんな立派な図書館も利用されなければ、ただの空間です。どんなに沢山の書物も読まれなければただの紙切れです。県財政が逼迫している昨今、書籍の購入にも厳しい制約がかかることは避けられませんが、生徒の感性を磨く場としての図書館がより充実したものとなることを願って已みません。



# 松江北高の現況

校長 和田秀穂

双松会の皆さま方には、日頃から松江北高へ温かい御支援と御協力を賜り有り難うございます。今年度から全日制課程は全ての学年で九学級編制となり、五月一日現在、二七学級、一、〇七六名の生徒が赤山で熱心に勉学に励んでいます。

### 一、進学状況

この三月の大学等進学状況は、国立大学合格者三〇四名、私立大学合格者三八五名、短大合格者八七名でした。東大六名、京大三名をはじめとして難関大と呼ばれる大学への合格者は四九名でした。本当に良くやってくれました。今年の特徴は、地元島根大学が医科大学との統合や教育学部の再編等の影響もあり、かなり厳しい入試結果でした。

### 二、文武両道

六月の県総体で松江北高は二年連続一八度目の「男女総合優勝」を飾ることができました。しかも、男子総合一位と女子総合一位で、堂々たる完全優勝でした。また、恒例の定演(定期演奏会)の盛大な開催を始め、高文祭参加の文化系各部の活躍も目立ちました。もちろん部活動だけではありません。かたく

な「文武両道」を校是に掲げる本校としては、生徒の日常の学習には特別に心を砕いていくところと有難いこと、生徒の学習意欲は極めて高く、今、母校は教職員も生徒もみな意気軒昂です。

### 三、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)、愛称「中国04総体」

この一学期は「中国04総体」の準備で大忙しでした。競技に参加する選手たちはそれぞれの部活の猛練習で、それ以外の大多数の生徒には「一人一役みんなが主役」の合い言葉の下で、集団演技、吹奏楽、マーチング、合唱、アナウンス、環境美化、情報発信、ガイドマップ作り等、自分の特技を発揮し、あるいは大会補助役員として、それぞれの持ち場で熱心に取り組んでもらいました。八月一日にはその努力とみんなの気持ちがあたりに通じたのか、折しも台風一〇号接近の悪条件にも関わらず、ほんの数時間は雨も風も止んで、県立浜山公園陸上競技場での総合開会式では、皇太子殿下をはじめ全国から集まった数千人の選手、役員、観客等の前で計画通りの見事な演技や発表

ができました。また、各会場で二四日間の長きにわたり戦われた競技には、松江北高からは九種目四一名もの多数の選手が出場し、母校と島根県の名譽をかけて正々堂々と戦い、男子登山部が縦走の部で全国第三位、男子テニスがベスト16、弓道(個人)が二位、ボート女子舵手つきオドルブルと空手道(個人)が準決勝に進出するなど立派な成績を収めました。

### 四、結びに

二学期が始まって早々の九月三〜五日には、盛大に学園祭が開催されました。いよいよ土曜日補習が開始されます。生徒達は気持ちを切りかえて机に向かうこととなります。三年生は完全に受験モードです。残された半年ばかりを悔いの残らないように力一杯努力を続け、学力を増進して欲しいものです。

このように、松江北高では今年度も学校教育活動が順調に展開されています。この伝統ある母校が今後ますます発展していくためには、諸先輩方の変わらぬ御理解と御協力が是非とも必要です。皆さま方には今後とも変わらず、母校の後輩達の活躍ぶりを温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。現況報告とさせていただきます。

## 事務局だより

### 一、「会員の方々の提言・投稿の依頼について」

昨年から読みやすいものという声を受け会報の紙面を一新しました。会員の方々の声を紙面に反映させ、この会報を少しでも身近なものにしたいと考えております。ご提案・ご投稿をお待ちしておりますのでよろしくお願い致します。

また、同窓会の連絡や催しの紹介等があれば紙面を利用してください。

### 二、「会報の一世帯一通の送付のお知らせ」

会報発行にかかわる経費の節減のために、昨年度お願いしましたとおり、今年度から一世帯三人までは一通を送付し、その際、宛名は卒業期の早い方宛とさせていただきます。なお、事情により今まで通りに送付して欲しいという方は、事前にその旨事務局にご一報いただければご希望に添いたいと存じますのでよろしく願います。

### 三、「各地区双松会への参加のお願い」

現在、本校には本部双松会の他に五つの支部(東京、近畿、米子、東部、大田)があります。幅広い年齢層の会員の皆様が多数出席なさって、先輩と後輩が一体となって活動しておられます。近年若い世代の会員の方の出席が少なくなっております。先輩と後輩が双松という太い絆で結ばれ、若い世代の方には多くのことが学べる場です。多くの方の出席をお願いしたいと存じます。

今年度中の予定が分かっているものです。

### 東京双松会

日時：十一月十三日(土) 十四時より  
会場：国際ビル 八階 日本倶楽部  
事務局：〒三四〇〇〇五三  
埼玉県草加市旭町四一三三 木佐横方

### 近畿双松会

電話：〇四八九四一六八八  
日時：十一月二十一日(日) 十四時より  
会場：大阪 梅田 阪神百貨店  
事務局：〒五五〇〇〇二二  
大阪府西成区江戸堀一三三三五  
(特)トヨコーポレーション内

電話：〇六六四四三二〇六一  
FAX：〇六六四四三一九七三六

冬期だより

松江高校九期の四十五周年記念同窓会開く

われわれ松高九期生といえは昭和三十三年の卒業。あれから四十五年もの歳月かと思概にひたりながら、記念同窓会を玉造温泉ホテル松の湯で開いたのが昨年の十月十七日です。早いで一年が経過しました。

ほぼ五年おきの開催が公約となつていて、各ルームから出る世話人は総勢二〇人程度。時に交代はありますが、代表世話人の小林忠夫君と、名簿



管理や印刷を引き受けてもらっている菅田巨城君は、不動のコンビです。「わーやつみたいならだろ？」と、いつも自らを卑下してやまない小林君ですが、巷間、出雲弁保存会副会長としても活躍する彼が会の中心にいないことには格好がつかません。

当日の参加者は一二七人。関西、関東を中心に県外から四一人が駆けつけてくれました。もちろん泊りがけですから開会は夕方。男性のほとんどは浴衣に着替えて、懐かしい顔を突き合わせるようにルームごとに席を並べた大広間は、セレモニーはそこそこににぎやかな宴会モードに突入しました。万歳三唱のあとには二次会場。夜も更けるまで思いつい話や福引、カラオケなどを楽しみました。参加記念に袖師窯の特製ぐいのみ、T君からは高級爪楊枝がプレゼントされました。

なお、今年四月には近畿支部同窓会が京都で、こちらも盛大に開かれました。双松会名簿によると九期生は総数六八〇人、全学二、〇〇〇人超のマンモス校でしたが、このため生徒と先生の関係が希薄にならざるを得なかったのは残念なことです。

二〇期同窓会開催報告



何十年閉じたままの生徒会誌を久々に目にしました。クラスの寄せ書き、勇姿の写真、見入っているとたちどころにあの頃にタイムスリップ。夢を追ひ、青春を謳歌した西川津の思い出、跡地に残る松の木々さえ愛しくなります。

昭和四十四年の卒業から、三十四年ぶりの再会、今回の参加者は八〇名。はるばるロンドンから、この会のために帰国したあるブレジデントは、日頃使っている英語を出雲弁に翻訳する苦惱(?)の挨拶。

その後、東京、大阪...と様々な人生が紹介され、昔の面影が残る顔も、誰か分からないほど苦労を刻んだ顔も感慨深い様子でした。皆五十歳を越えてしまいました。会の中では十八歳です。華やいだ声、はずむ心、あの頃の若さがいっぱい飛び交っていました。友と歌った曲が思い出に変わっていきましました。この先、四十周年、五十周年の再会が楽しみです。

この会は二〇〇三年に開いておりましたが、報告が遅くなりましたこと、お詫びいたします。

普通科36期 理科科15期卒業生の皆様 卒業二十周年同窓会のご案内

- (1) 期日 平成十七年一月二日(日) 午後三時より
  - (2) 会場 ホテル一畑
  - (3) 会費 老万円(当日会場にて徴収)
- 卒業二十周年の区切りの同窓会を企画いたしました。住所変更等ありましたら、すみやかに双松会事務局、または学年幹事までご連絡ください。九月中旬にご案内を郵送しております。

(36期幹事 田邊・原)

今年のテーマは We can fly!

生徒会長 二年 勝原麻里絵

今年の松江北高学園祭は、九月三日、五日の三日間開催されました。県民会館での開会式に始まり、初日、二日目とも短い準備期間でありながら、一年生の北高フォーラム、二年生のルーム出し物と各クラスが個性ある発表をしました。最終日の体育祭は台風の影響で朝からあいにくの雨模様となつてしまい、トラック競技を除く三種目で行われました。昼休み、午後からのページェントの準備に三年生が追われる中、多くの二年生がスポンジや雑巾を手に、自主的に校庭の水取りを行いました。そして、こうした全校生徒の願いが空に届いたのか、午後からは青空の下乾いた校庭で、三年生の皆さんが素晴らしいページェントを発表してくださいました。

今回の学園祭で全校生徒の誰もが、普段の学校生活では学ぶことのできない大切なものを学び、北高生の絆がより強いものとなったことを感じました。

平成十六年度役員会報告

本年度の役員会は七月二十四日(土)十時より、本校会議室に於いて松本会長を議長に、次の議題について審議が行われた。

- 一、平成十五年度会務報告並びに会計決算報告
二、平成十六年度会務計画並びに予算(案)審議
三、(新)常任幹事の選出について
四、十七年度発行の名簿について
五、その他
議題については原案どおり承認された。四について事務局から双松会名簿発刊に関するスケジュールが示された。市町村合併を控えているため、発刊が遅れることも考えられますが、現時点での予定は次の通りです。
・調査カード・名簿購入希望者票、不明者リストを平成十七年三月上旬発送(旧住所)
・平成十七年六月中返信受付
・不明者リストを期ごとに作成し、期の幹事に調査依頼
・平成十七年八月予定の会報で再度名簿購入希望者を募集
・平成十七年十月より名簿制作開始
・平成十八年一月上旬発刊・発送

平成十六年度双松会役員

Table listing board members including Chairman (柴田 午郎), Vice-Chairman (山本 隆志), and various Secretaries (幹事, 副幹事, 常任幹事) with their names and terms.

平成16年度双松会会計予算書

Accounting budget table for FY16 with columns for item, budget, previous year, change, and notes. Includes income (入会金, 繰越金, etc.) and expenses (会議費, 会報発行費, etc.).

平成15年度 双松会会計決算書

Accounting final account table for FY15 with columns for item, budget, actual, change, and notes. Includes income (入会金, 繰越金, etc.) and expenses (会議費, 会報発行費, etc.).

平成15年度 会報編集助成金会計決算書

平成16年3月31日現在

Summary table for the grant account showing total income (4,378,900), total expense (1,400,000), and balance (2,978,900).

Income table for the grant account showing two categories of grant money (4,352,850 and 26,050).

Expense table for the grant account showing the grant money used for printing (1,400,000).



平成十六年度 通信制役員会報告

平成十六年度役員会が次のように行われました。
日時 平成十六年七月三日(土) 十四時
場所 松江市黒田町「パレストイマがたま」
出席 役員三十六名、学校側五

名(和田校長、尾崎教頭、土江、日野、細木各先生)
議事 ①平成十五年度会務・決算・監査報告②平成十六年度会務計画案、予算案
以上について、原案どおり了承されました。また、その他として、平成十七年度に迎える通信制課程創立五十周年の事業案が提案され、了承されました。

通信制同窓会 平成16年度予算書

Table with financial data for the 16th fiscal year budget. Includes columns for income (収入) and expenses (支出) with sub-categories like membership fees and administrative costs.

通信制同窓会 平成15年度決算報告

Table with financial data for the 15th fiscal year final account. Includes columns for income (収入) and expenses (支出) with sub-categories like membership fees and administrative costs. Includes a summary table at the bottom.

北高生の活躍



第四二回鳥根県高等学校総合体育大会結果報告

五月二十八日(金)から六月六日(日)まで、県内各地を会場に第四二回鳥根県高等学校総合体育大会が行われ、北高生らしい最後まであきらめない戦いぶりや、会場にかけつけた生徒の応援は私たちに感動を与えてくれました。また、今年度は去年に引き続き男女総合優勝(一八回目)となりました。

総合成績

- 男女総合Aグループ
1位 松江北高等学校 204点
2位 出雲高等学校 161点
3位 大社高等学校 131点
男女別Aグループ
男子
1位 松江北高等学校 105点
2位 出雲工業高等学校 75点
3位 大社高等学校 74点
女子
1位 松江北高等学校 99点
2位 出雲高等学校 91点
3位 松江商業高等学校 71点

全国大会の結果報告

今年のインターハイは鳥根県を中心とした中国五県で行

- 陸上競技 (天社浜山陸上競技場 B/2/5/6)
三段跳び 清水 悠
女子400m x 4リレー
河野香織(8R)・神田優子(15R)・曾田水鳥(16R)・伊達有花梨(11R)・門脇 円(27R)・中山ゆかり(24R) 予選敗退
100mハードル 中山 予選敗退
400mハードル 河野 予選敗退
登山 (三瓶山・琴引山・大万木山 8/2/5/8/6)
男子縦走 第3位
浦柄信吾(8R)・大野貴之(3R)・山根匠人(22R)・高田惇平(28R)
空手 (栗田町立総合体育館 8/6/5/8)
男子型
鎌田英樹(5R) 準決勝敗退
バドミントン
鳥取市民会館等 8/2/5/6
男子団体 永瀬敬三(7R)・玄行友也(11R)・小野達也(13R)・寶田聖矢(13R)・横田昇平(15R)・原田広翔(18R)・福原将太(14R)・加藤亮介(22R)・和田隆之介(26R) 初戦敗退
男子個人シングルス 福原 初戦敗退
男子個人ダブルス 福原・玄行 初戦敗退
弓道 (鳥取県武道館弓道場)
男子個人 桑田紘弥(6R) 決勝戦敗退
柔道 (広島県立総合体育館 7/31/5/4)
男子個人100kg級 平塚 亮(6R) 1回戦敗退
ボート (広島県福山市菅田川漕艇場 8/5/5/8/8)
女子シングルスカル 中井裕子(2R) 準々決勝敗退
女子舵手付きクオドルプル 吉岡朋子(1R)・黒川めぐみ(2R)・高橋祐美(7R)・安達理沙(16R)・高田万梨子(18R) 準決勝敗退
テニス (岡山県備前市備前テニスセンター)
団体の部 8/2/5/8/4
個人の部 8/5/5/8/8
男子団体 矢野正洋(1R)・星村純平(2R)・竹下 涉(2R)・飯沼拓也(22R)・日高哲平(13R) ベスト16
男子個人ダブルス 星村・竹下 ベスト32

男子個人シングルス

星村、飯沼 初戦敗退

女子団体 久保田智子(1R)・的野祥子(3R)・森脇智子(8R)・山田南美(21R)・大野華鈴(23R) 初戦敗退

女子個人ダブルス

山田・大野 初戦敗退

女子個人シングルス 的野、山田 初戦敗退

水泳

男子100m平泳ぎ・200m個人メドレー

田中佑典(18R) 予選敗退  
女子100m平泳ぎ・200m平泳ぎ

岡代知子(22R) 予選敗退

全国高校野球選手権大会属根県大会

野球部

3回戦敗退

全国総文祭徳島大会

小倉百人一首かるた  
(徳島県鳴門市鳴門総合運動公園体育館 7/31~8/2)

捕り手の部 ベスト8  
平野佐世子(9R)・北村ゆかり(19R)

読手の部  
最優秀賞(1位) 増本歩美(9R)

文芸

(徳島県徳島市徳島教育会館 7/31~8/2)  
平岡 淳(8R) 出場

全国定通大会報告

八月に行われました各競技の結果は、次のとおりでした。

バスケットボール

男子

松江北55.65札幌南北海道

卓球

男子 個人戦

柘原真也 一回戦敗退

西川靖晃

二回戦 3・1佐々木(岩手)

三回戦 0・3桑原(大分)

女子 個人戦 岩田美保

二回戦 3・0清水(群馬)

三回戦 0・3浦宗(愛媛)

ソフトテニス

男子 個人戦 柳原・松尾

一回戦

4・1早川・可知(岐阜)

三回戦

0・4小林・日向(山梨)

剣道

男子

今岡宏孝

二回戦

阿部(熊本)

瀧澤潤

二回戦

佐藤(東京)

三回戦

野田(福岡)

陸上競技

川西 裕

100m・200m  
予選敗退

やっぱりインターハイは素晴らしい

登山部顧問

富田 一志(北高33期)

「第三位、島根県松江北高等学校。最初に聞いたとき、「嘘だろう」というのが第一印象であった。インターハイの登山競技は、設備、体力、歩行、救急の知識、装備、天気図、登山の装備等々、様々なことを問われる総合的な競技である。

インターハイ初日、三瓶山北の原で、設営審査が行われた。審査が始まるやいなや土砂降りの雨。北高のテントは見る見る濡れていく。手際の悪さ、四人がうまく協力できていない、そんな様子がうかがえた。登山競技において、選手と監督は基本的に接触してはならない。言いたいことはたくさんあったのだけれど言えずじまいであった。

翌日の三瓶山山行。昼食時に接触可能。審査員の前でスリッパしたとか。かなりやばい。山行二日目の琴引山は途中から雨、三日目の大万木山は時間的なことからカット。雨のお陰で涼しい山行ではあったが、全国から来た選手諸君のことを考えると、大万木山を踏ませてあげたかったように思う。

三日目の夜、初日に行われたペーパーテストの結果が帰ってくる。自然観察のテスト(山の名前、高さなど)が課題される。完璧を目指していたのだが、ミス連発。この時点で入賞は消えたように感じた。かすかな期待は、



一昨年三位の多々良学園よりほんのわずかではあるが、上にいそうなこと。

そして、閉会式。審査委員長の講評がありいよいよ順位発表。六位、山口県多々良学園高等学校。これを聞きもしかしら五位かと期待。「五位、福島県磐城高等学校」これで消えたと思った。そして、文頭に続く。

私自身、初めてのインターハイ出場であった。初めて出場して三位入賞なんて本当に夢のようである。教員になって、益田高校勤務。このとき、初めて登山競技というものに出会う。県総体のコース隊長を任せられ、何もわからぬままに歩いていた。歩くうち、登山競技の面白さ(これがなんなのかは今もわからない)がわかる気がした。

そして松江北高校に着任。ここでも三年ほどは大人しく他の部活の顧問を務めていたが、ゲリラ的に生徒を誘い山に行っていた。中国大会の道を開くのに参加するなどした。ただ、ゲリラ的に活動するのも事故があったときなどいろいろ問題が考えられ、同好会結成をお願いした。その際、百年史をひもとくと、北高(松江中学)登山部の輝かしい歴史が存在した。「山陰山岳会のバジオニアとして活動した(百年史より)」が戦後復活しないままであった。

学校の理解もあり、同好会発足。二年後、部活動に昇格。現在、部活動になって三年目である。

同好会発足、部活動への昇格の際にも、触れたのだが、登山競技とは、体力だけでなく、知識、生活技術など、人としての生活全般が試される競技である。本校の生徒のように、学業と部活動の両立を目指すという生徒にとって、格好の部活動であると思われる。全国の上位入賞校を見ても、所謂、名門校、進学校が多いのも当然のことであろう。さて、インターハイに監督として出場してみても、今思うこと。それは、すごく楽しかったということ。県内大会と比べて、そんなに、ペースも速くなく、他県の監督とゆつくり話をし、酒を飲む。こんなよいものなら毎年出場したい。そして、本校の生徒ならそれは可能であると考えている。

本年度の進路状況

今春の進学状況について報告させていただきます。

二〇〇四年度の入試は大学入試センター試験、国公立大学、私立大学、それぞれで大きく志願者を減らす結果となりました。センター試験では四年ぶりに五八万人台まで志願者を減らし、ここ五年間で最も大きな減少となりました。

国公立大学への二次試験志望者数も、センター試験の平均点アップにもかかわらず、五教科七科目化の影響を受け三年ぶりに減少しました。しかし、いわゆる難関国立大学の志願者数はさほど大きな変動はなく例年通り激戦でした。

さらに、島根大学と島根医科大学の統合、並びに島根大学教育学部の再編等を含め、全国国立大学が独立行政法人となり、入試制度を含め大きな変革期を迎えています。

このような厳しい入試状況の中で、卒業生達は先輩方の伝統を受け継ぎ、夢の実現に向けて最大限の努力をしまいいりました。心配された昨年度の県高校総体では、男子総合は二位でしたが、女子総合が三連覇の活躍で男女総合優勝奪還を果たし大いに盛り上がりました(ちなみに十六年六月県総体は男女総合完全優勝三連覇達成しました)。

進路状況

平成16年度学校種別合格状況(平成16年3月集計)

卒業生	平成14年3月			平成15年3月			平成16年3月		
	現役	卒生	計	現役	卒生	計	現役	卒生	計
国立大学	227	64	291	208	71	279	179	75	254
公立大学	58	13	71	39	8	47	40	10	50
私立大学	393	140	533	285	132	417	256	129	385
短期大学	40	4	44	56	4	60	60	5	65
専門学校等	31		31	29	4	33	22		22
就職	1		1	2		2	1		1
合計	750	221	971	619	219	838	558	219	777
クラス数	10クラス			10クラス			10クラス		

例年と同様にその後の学習への切り換えも自主的に取り組め、目標を実現していった生徒達の逞しさを実感させてくれました。進学状況につきましては表に結果をまとめましたが、幾つかの特徴をあげてみます。東京大学合格者は前年より一名増の六名、京都大学合格者は前年度同数の三名、旧帝大合格者は、九州大学合格者二〇名を含め、前年より四名増の合計四七名と比較的健闘しました。さらに国立大学医学部合格者の人数は八名と少なかったものの、大阪大学一名、岡山大学三名、広島大学二名と立派な成果を残してくれました。ただし統合・

再編のあった地元島根大学合格者は三四名(前年度島根医科大学を含め五八名)とかなり厳しい結果でした。私立大学では早稲田四名、慶應五名とやや少なかったものの、関関同立九一名(前年度九八名)と難関大にも多数合格しました。しかし不況ということもあってか、本校の私立大学受験数自体が減っているため合格者数も年々減少しているのが実態です。短期大学では資格志向の影響で、特に初等教育・幼児教育・保育・栄養関係等がかなりの激戦でした。何よりも特筆すべきは、今年も三年間部活動に頑張った諸君が、難関大をはじめとする様々な大学に合格していることです。部活動との両立の実践はかなり

酷なものです。毎日の苦しさの中でやり抜こうという強い意志、実行力が涵養され生徒達の持っている資質が磨き上げられ、北高の文武両道・質実剛健の精神が生徒達に受け継がれていると意を強くした次第です。北高の「進路指導Ⅱ生き方指導」並びに「伸びる、伸ばす」の姿勢を一層充実させていきたいと考えています。今後とも、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

会報編集助成金の御礼

十四年度に会員の皆様にお金のお願いを致しましたところ、多くの方々から御協力を得ることができました。十五年度発行の当紙(二四号)に御芳名を載せさせていただきます。その後御協力いただいた方のお名前は次のとおりです。

- 石岡 久和 石道 恵子
- 小川八重子 鎌田 満夫
- 鎌田 康夫 川西 弘幸
- 熊野 禮助 小幡 真也
- 松蔭 茂男 曾田 淳夫
- 隆浦 正哉 高尾 栄重
- 谷田恵美子 松浦久美子
- 松見 育子 森脇 恵美
- 安永 玲子 山本浩二郎
- 山本 建夫

(五十音順・敬称略)  
誠にありがとうございました。

同窓会名簿十七年度版「双松」発行についてのお知らせと調査方法についてお願い

五年毎の改定を来年にひかえて、事務局では準備を進めています。

名簿をより一層充実・正確なものとするため皆様のご協力をよろしくお願いいたします。今回の会報中にも詳しいスケジュールを載せています。ご面倒でも紙面に記載してあります事項に目を通していただき、訂正等ご記入くださり、必ずご返送ください。それに基づきまして何度かの調査を行い、発刊のはこびとなります。調査方法につきましては、郵便のみで、松江北高校双松会事務局(電話二一四八八八)で行います。電話では一切調査することはありません。最近、松江北高校の名を語り電話で問い合わせるというケースがあるようですが、当会とは関係ございませんので注意して下さい。

販売方法につきましては、調査カード発送と同時に購入希望者を募ります。詳しくは三月下旬の事務局からの送付物をご覧ください。

